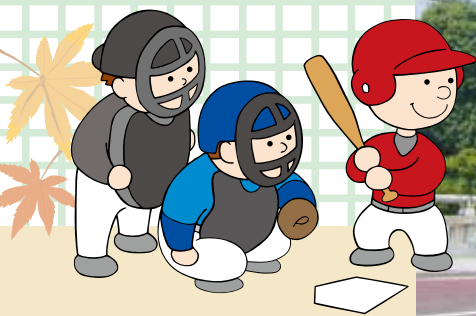


ちょっと気になる八王子マガジン

は ち ど ろ び



2019年 清風号

No.43

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉

特集

わがまち八王子
探訪シリーズ

「横山」



武蔵陵墓地に至る参道に架かる南浅川橋

横山地域を深く知る！ その1

“横山たっぷり周遊コース”

横山事務所～めじろ台駅

横山地域を深く知る！ その2

“横山のんびり散歩コース”

横山事務所～武蔵陵墓地

ご報告

コラム 八王子の民俗誌⑨

コラム 八王子の原風景⑨

私の本はこうして生まれた 其の四十三

「清水工房創業50周年感謝展」開催

明治になって変わる民俗～狭間の獅子舞 佐藤 広

なぜ湯殿川か

馬場喜信

『ポチとター坊と焼夷弾——八王子空襲体験記』 石井忠明 著

深〜く

横山地域を知る！ その1

横山たっぷり周遊コース

八王子探訪シリーズの第3回は横山地域。かつて横山村役場のあった横山事務所を軸に、京王高尾線沿線などを回るルートと南浅川沿いに武蔵陵墓地までを目指す2つのルートを設定しました。大正・昭和時代に大きく変貌した町を歩きながら、横山地域の歴史に触れてみます。

はちとび
観光★
——特撰——



◎「横山」の縁起

八王子市の西南部に位置する横山地域。江戸時代の散田村、下長房村、下栲田村、寺田村、館村、大船村が1889（明治22）年に合併して横山村となりました。

「横山」の名は、八王子市域周辺の最も古い地名でもあります。平安時代後期から鎌倉時代初期にかけて生まれた武士団、武蔵七党の1つである横山党に由来します。武蔵七党の中でも最大規模の横山党を率いた横山氏は、現在の八王子市域を本拠としていました。しかし、1213（建暦3）年の和田合戦に敗れて滅び、大江広元が領地を引き継ぎます。

時代は変わり、明治期にこの地の村の名称として「横山」が採用されました。昭和になり、八王子市との合併によって横山がなくなってしまうことを憂いた社会運動家の橋本義夫は、いくつもの企画を提案。その1つに1954（昭和29）年建立の万葉歌碑があります。「赤駒を山野に放し捕りかにて多摩の横山かしゆかやらむ」という『万葉集』の中にある歌碑で、当時の武蔵国府の府中から、防人として「多摩の横山」を越えて、西方へ向かった夫を思っ詠んだ歌です。このころから、長房団地、めじろ台などの大規模な住宅地が開発され、1960年代以降に人口が急増しました。かつて農業、織物業が盛んだった面影もいまはなく、現在は家々がひしめいています。

真覚寺（1935年頃）
須崎芳巳さん提供



東京工業高等専門学校（1965年）
八王子商工会議所提供



めじろ台団地造成中（1966年頃）
安田武義さん提供



むかしなつかし

横山地域



御嶽神社（1949年）
石坂正己さん提供



栲田町の脱穀風景（1968年）
西山典明さん提供



栲田遺跡（1980年）
馬場喜信さん提供

※この写真はすべて揺籃社刊『市民の写真集 八王子の今昔』シリーズより

横山事務所～ めじろ台駅

マイペースで
歩きましょう！

次のページは
場所の紹介です！

この場所を
ご案内します！

- ① 真覚寺
- ② 高宰神社
- ③ 万葉公園
- ④ めじろ台
- ⑤ 東京工業高等専門学校
- ⑥ エスフォルタアリーナ八王子
- ⑦ 高楽寺
- ⑧ 御嶽神社
- ⑨ 東京医大八王子医療センター
- ⑩ 浄泉寺
- ⑪ 御霊神社
- ⑫ 龍見寺
- ⑬ 梶田遺跡公園

①真覚寺



1411（応永18）年創建。境内の心字池は湧水によって潤っている。かつてはここに多数のヒキガエルが産卵に訪れ、その様は蛙合戦として親しまれてきた。芭蕉翁蛙塚碑や千人同心が奉納したとされる梵鐘などがある。（写真は心字池）

②高宰神社



かつては山田町の広園寺境内にあり、「小蔵主明神」と称したが、江戸時代はじめに真覚寺境内に移り、名を改めた。江戸時代には千人同心の信仰を集め、千人頭らの寄進した灯籠がある。毎年8月に例大祭が行われる。

③万葉公園



多くの木々に囲まれた、広場のある公園。高台からは八王子を一望でき、景色を楽しむことができる。合併により消えゆく横山の名を万葉集の歌で残そうとした橋本義夫建碑の「万葉歌碑」や、横山村の忠魂碑・殉国の碑が建つ。



▶万葉歌碑



▶横山村忠魂碑

ひと休み
コラム

法政大学 「@団地」

「@団地」は、グリーンヒル寺田の地域活性化を進める法政大学の学生たちによるサークル活動です。もともとは2014年、団地内の空き店舗を活用したイベントを学内の保井美樹ゼミが企画・開催したのをきっかけに、学生と地域住民との交流がスタートしました。こうした取り組みを引き継ぎ、現在は法政大学多摩地域交流センターの学生プロジェクトとして活動を行っています。

現在、グリーンヒル寺田の住民と交流する学内のサークルとしては、イベントの企画・運営をする「@団地」とコミュニティカフェを運営する「カフェ部」の2団体があります。そのうち「@団地」は、毎月1回、第3土曜日午後開催する季節のイベント「お楽しみday」や、年1回、初夏にマルシェやステージなどを展開する一大イベント



▲「@団地」を紹介する高橋さん

「あーつとフェスティバル」を運営しています。「学生がやりたいことを、ただ企画するだけではだめだと思うんです」と語るの、入学し

てすぐに「@団地」の活動に惹き付けられたという社会学部2年の高橋健太郎さん。「@団地」では自らの企画を売り込むというよりも、住民の意向を受けて話し合いを



重ね、寺田地域の住民と一緒にイベントを作り上げています。たとえば今年で3回目を迎えた「あーつとフェスティバル」では、地元有志の方々と打ち合わせを重ねて「みんなと一緒にイベントをつくる」ことにこだわってきました。住民の出店やステージパフォーマンスのほか、他地域で活動する法政大学の学生、関わりのある市民食堂などの協力を得ながら、今年は400名もの来場者があり、大盛況となりました。

「@団地」では先輩たちの実績を引き継ぎながらも、その年のメンバーならではの新しい視点や問題意識も大事にしています。「寺田地域の歴史の1ページに刻まれるような存在になれば」と語る高橋さん。若者たちの「地域愛」が、着実に寺田町に根付きつつあります。

* 毎月第3土曜日13〜16時、おひさま広場にて「お楽しみday」開催中

* 「@団地」問い合わせ先…042（783）3014（法政大学多摩地域交流センター）

④めじろ台



1967（昭和42）年に京王帝都電鉄により、山田、散田、梶田にまたがる丘陵地帯に造成された。計画人口1万人と大きな住宅地で、京王高尾線のめじろ台駅も完成。分譲の際には大変な人気を博し、多くの人が抽選に殺到した。

⑤東京工業高等専門学校



1965（昭和40）年開校。機械工学科、電気工学科、電子工学科、情報工学科、物質工学科の5学科に約1000名の学生を有する。毎年10月の学園祭「くぬぎだ祭」では、工夫を凝らした展示・イベントなどが開催される。

⑥エスフォルタアリーナ八王子



2014（平成26）年開館。大規模な競技大会や公式試合に対応できる多摩地区最大のアリーナのほか、会議室、多目的室、トレーニング室などを併設。ボルダリングワールドカップや大相撲八王子場所などが開催された。

⑦高楽寺



天明年間に襲った大飢饉に対して五穀豊穡・悪病平癒を祈願し、住職の了弁が全長30mほどのコの字型の洞窟を掘り、秩父三十三観音を安置した。この横穴石仏群は市指定史跡となっている。樹齢約200年という境内のしだれざくも有名。

⑧御嶽神社



境内で毎年8月の第3日曜日に行われる狭間の獅子舞は、1590（天正18）年3月に北条氏照から獅子頭を拝領して始まったと伝えられる。御嶽神社の祭礼で、悪疫退散を祈願して奉納される。（本誌P118王子の民俗誌9参照）

⑨東京医大八王子医療センター



1980（昭和55）年、市と東京医科大学が共同で運営する形で開設。病床数610を備える総合病院として、地域の中核病院の役割を担っている。隣接して、都内唯一の市立の看護専門学校もある。（はちとび36号参照）

⑩浄泉寺



戦国時代末期、浄泉寺城と称し、近藤砦とも呼ばれていた。今も土塁や空堀の跡が残されている。1573（天正元）年、八王子城主北条氏照の家臣、近藤出羽守助実が創建。所蔵の半鐘は、加藤鋳物師の1人、加藤与兵衛重次の作。

⑪御霊神社



醍醐天皇の系統貴族の子孫、鎌倉権五郎景政を祀るため、浄泉寺の守護神として建てられた。2006（平成13）年に現在の拝殿が新築された。かつて11月15日に火を焚く神事があつたが、今はなく、現在は8月に夏祭りが行われている。

⑫龍見寺



寺内の大日堂には高さ88・5cmの大日如来坐像が安置されている。寄木造り、漆箔、玉眼（当初は彫眼）で、藤原時代末期（11世紀）の地方作とみられる。東京都の文化財に指定され、毎年秋に一般向けに特別公開されている。（写真は大日堂）

⑬梶田遺跡公園



1975（昭和50）年に発掘調査された梶田遺跡は、縄文時代中期の典型的な集落跡として国史跡に指定された。一部が遺跡公園として整備され、当時の植生を復元しているほか、モニメントや説明板が建つ。（はちとび33号参照）

深〜く

★横山地域を知る！ その2

はちとぴ
観光★
——特撰——

横山のんびり散歩コース



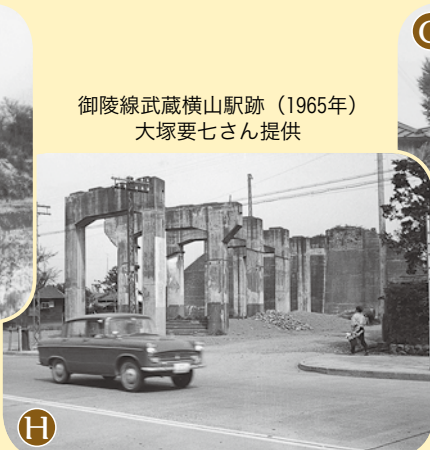
マイペースで
歩きましょう！



こんな風景
だったんだ！



南浅川の堤防（1950年代）
高崎喜良さん提供



御陵線武蔵横山駅跡（1965年）
大塚要七さん提供



横山事務所（1972年）
瀬沼和重さん提供

むかしなつかし
横山地域

- 1 横山事務所
- 2 いちよう並木
- 3 長安寺
- 4 八王子宿西端の碑
- 5 船田石器時代遺跡
- 6 長房団地
- 7 稻荷神社
- 8 南浅川
- 9 御陵線跡
- 10 長房市民センター
- 11 南浅川橋
- 12 陵南公園
- 13 長泉寺
- 14 東照寺

横山事務所～ 武蔵陵墓地

あともう
少しだよ！



次のページは
場所の紹介です！



至高尾駅

甲州街道のいちよう並木 (1951年頃)
縣敏夫さん提供



長房小学校でのラジオ体操 (1975年)
西山典明さん提供



船田石器時代遺跡の碑 (1975年頃)
縣敏夫さん提供



※この写真はすべて揺籃社刊『市民の写真集
八王子の今昔』シリーズより

①横山事務所



かつての横山村役場。会議室、和室、調理講習室を備えた横山市民集会所を併設する。駐車場の小高い石垣の上にあるのは樹齢200年以上のオオツクバネガシ。地元の人が「浅間様」と呼んでいた浅間神社のご神木だった。

②いちよう並木



高尾駅北口から甲州街道の追分まで、4.2km、約760本のいちよう並木は、大正天皇の多摩陵造営記念として、道路改修された際に植えられたもの。日本3大並木の1つともいわれ、市の天然記念物に指定されている。毎年黄葉する11月には「いちよう祭り」が開催される。（はちとび15号参照）

③長安寺



千人同心組頭、伊藤正純の弟で漢方医、伊藤猶白の墓がある。参道の敷石は、1929（昭和4）年まで甲州街道を走っていた路面電車「武蔵中央電気鉄道」の線路の敷石と伝えられている。（はちとび34号参照）

④八王子宿西端の碑



かつての八王子宿の西の入口。現在の甲州街道は多摩御陵の完成とともに、それまでの狭い街道を補修してきた。この碑から長安寺の向かい、現在の甲州街道に至る400mほどは補修前の街道の一部である。大正末期まで路傍に浅川からの水路も通っていた。副碑に新道建設時の甲州街道の様子が刻まれている。

⑤船田石器時代遺跡



1927（昭和2）年の発掘調査で発見された縄文時代後期の敷石住居であり、国指定史跡。直径5mほどの範囲に偏平な川原石を敷いた住居があり、その中央の炉には土器が埋められていた。現在は約1200㎡が保存され、住居跡は発掘当時のまま地下に眠っている。東側に石碑が建つ。

⑥長房団地



1958（昭和33）年に市営住宅が建設されて以降、市営・都営を合わせて多くの公営住宅が建設され、居住人口2万人を超える市内最大の住宅団地となった。現在は長房団地全体で高層化を進めた建て替え工事を行っている。

⑦稲荷神社



現在の横山事務所から移転した浅間神社が隣に並んでいる。1948（昭和23）年、稲荷神社の境内で地元有志による農繁期だけの青空保育が始まり、それを契機として、現在も「いなりもり保育園」が運営されている。

⑧南浅川



長さ約8kmの河川。案内川と小仏川を源流とし、中央線、甲州街道と並行して流れる。元本郷町の鶴巻橋付近で北浅川と合流し、浅川となる。春先には陵南公園付近の桜並木、秋には横山橋付近のコスモスが美しい景観を生み出す。

⑨御陵線跡



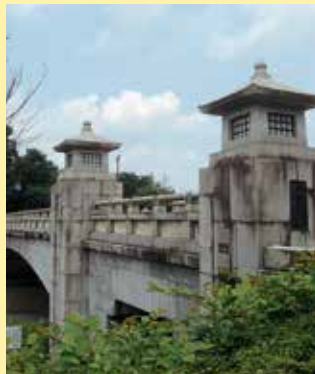
横山橋近くには、かつてこの地を通っていた京王電気軌道御陵線の高架線橋脚の遺構がある。御陵線は多摩御陵への参拝客を運ぶ目的で、北野駅から多摩御陵前駅までの区間が敷設されたが、1945（昭和20）年に休止された。（はちとび34号参照）

⑩長房市民センター



1984（昭和59）年開館。会議室や和室、調理室、体育館などを備える。毎年春になると、「長房ふれあい端午まつり」が開催され、センターに寄せられた多くのこいのぼりが南浅川沿いを泳ぐ。（はちとび32号参照）

⑪南浅川橋



大正天皇陵建設の際、東浅川宮廷駅から御陵に至る参道新設を行い、南浅川に全長87mの木橋が架けられ、南浅川橋と命名された。現在の橋は、1936（昭和11）年、大正天皇十年式年祭に合わせて東京府が架け替えた鉄筋コンクリート橋。昭和天皇造宮の際、橋の洗浄、補修、参道の整備が行われた。

⑬長泉寺



以前は多摩御陵の敷地内にあったが、御陵建設に伴って現在地に移転。市指定史跡の鈴木正三（別号石平道人）の坐像と墓がある。鈴木正三は、江戸時代初期の禅僧・思想家として多くの作品を残している。（写真は鈴木正三の墓）

⑫陵南公園



東京オリンピックのときに自転車競技場として使用され、後に公園となった。南浅川に面し、背後に多摩御陵の参道を控えている。園内には遊具のほか、野球場や池などがある。200本近くの桜が植えられている。

⑭東照寺



1504（永正元）年開創。長泉寺同様、多摩御陵建設に伴って現在地に移転。空襲で全焼した陸軍幼年学校犠牲者供養のための観音像が職員生徒有志により建立され、毎年4月に慰霊祭を行っている。「八王子鈴木正三顕彰会」事務局も担っている。

ひと休み コラム

武蔵陵墓地

毎年11月、いちよう並木が黄色く染まるころ、甲州街道はいちよう祭りで大いに賑わいます。現在、いちよう祭りの事務局を担っている場所は、かつて大正天皇大喪のために整備された東浅川宮廷駅がありました。ここからけやき並木の参道を抜けると、大正天皇、昭和天皇など4つの陵墓がある武蔵陵墓地に辿り着きます。

総門を入ると、車回し広場があり、そこから先は徒歩での参拝になります。広い道一面に玉砂利が敷かれた大杉並木を進むと、静寂な雰囲気包まれます。

手前の参道を曲

がると見えるのが、武蔵野陵（昭和天皇陵）で、その右隣にあるのが武蔵野東陵（香淳皇后陵）。真つ直ぐ参道を進むと、多摩陵（大正天皇陵）があり、その右隣に多摩東陵（貞明皇后陵）があります。いずれの陵墓も葺き石で覆われた上円下方墳で、その前には大鳥居が建っています。

この地はかつて南多摩郡横山村、浅川村、元八王子村にまたがる御料林でしたが、19



26（大正15）年12月25日に大正天皇が崩御された後、新たな陵に選定されました。それまでの天皇陵は近畿地方中心でしたが、東日本です。翌年2月に大正天皇大喪の儀が執り行われ、陵名が「多摩陵」と決定。一般参拝には50日間約90万人が訪れたといわれています。当時の横山村・浅川村・元八王子村の人口は合わせて約1万3千人だったので、参拝者の多さがうかがえます。

1989（平成元）年1月7日、昭和天皇崩御の際も武蔵陵墓地が陵墓に決まり、2月24日の大喪の礼の後、昭和天皇の陵名が「武蔵野陵」と定められました。この際も1か月間に約57万人と、非常に多くの一般参拝者が訪れました。

大正、昭和という激動の時代と裏腹に、静かに佇む4つの陵墓。独特の雰囲気の中で、往時に思いを馳せてはいかがでしょうか。

*陵墓参拝時間は9時〜16時まで（参入は15時30分）まで。年間を通して参拝できるが、行事などのため休止することがある。